

いるまの企業 プチ自慢

第28回 協同特殊鋼線(株)

狭山ヶ原11-3
☎2934 - 6111
設立 昭和60年1月
<http://www.kyoutoku.co.jp/>



コイル製品

棒鋼製品

協同特殊鋼線(株)のルーツは、狭山ヶ原に昭和41年に造成された武蔵工業団地の第一期分譲から現立地に工場を構えていた、(株)特殊鋼線製作所にさかのぼります。その後、大阪の協同シャフト(株)の傘下となり、昭和60年1月に現社名にて発足した社歴34年目の比較的若い会社です。

平成19年にはお隣の日高市に新工場を建設し、一部設備を移設しました。大手鉄鋼メーカー各社から調達した「線材」という鋼材に両工場にて表面処理・機械引き抜き・熱処理加工等を実施し、お客様からの要求サイズ・仕

様の、コイル・棒鋼製品に仕上げます。

当社製品の納品先の80%は自動車業界で、ホイールナットやサスペンション用懸架ばね等の重要保安部品に成形されます。その他、鉄骨・橋梁用締結ボルトや建機・農機用部品等、さまざまな用途にも当社製品が採用されています。

社員数は97人で、平均年齢は36歳と若く、その60%強が入間市民という地域密着企業です。小さな子どもを持つ社員も

多く、入間市イックボス応援プロジェクトにも参加し、社員の育児参加を積極的に支援しています。また、余暇



本社工場

活動ではフットサルチームが上藤沢のフットサルコートで、月2〜3回平日終業後に練習・試合を行っています。また軟式野球チームが入間市野球連盟のBクラスに所属し、毎年春と秋に黒須運動場で開催される、連盟主催の大会に参加しています。

今後も、入間市工業会・入間市商工会を中心とした地域団体活動にも積極的に参加しながら、特殊鋼鋼材という高い品質管理を求められる基幹素材での「ものづくり」を通じて、地域に一層貢献していきます。

防災コラム

危機管理課

第15回

災害用伝言ダイヤル171

家族の安否を知るために

「大阪府北部の地震」「平成30年7月豪雨」により、各地で甚大な被害が発生しました。災害は私たちの平穩な生活に突如として牙をむきます。自分の家族が離れているときに災害が起きた場合、どのようにして家族の安否を確認すればよいでしょうか。

安否確認のツール

大規模な災害が起きたときには、多くの人が連絡を取り合おうとするため、電話がつながりにくい状況になります。そのような場合には、災害用の安否確認のツールを活用しましょう。安否確認のツールとしては、電話の通話機能の利用による「災害用伝言ダイヤル171」やインターネット経由による「災害用伝言板Web171」、各携帯電話が提供している「災害用伝言板」

害用音声お届けサービス」などがありません。

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルとは、電話の通話機能により、伝言を音声で登録し、全国からその音声を再生(確認)できるサービスです。伝言を登録できる番号は、固定電話・携帯電話・PHS・IP電話の番号(固定電話番号は被災地域の市外局番に限る)です。使用方法は、まず「171」をダイヤルします。ガイダンスに従い、伝言を録音する場合は、数字の「1」を押し、自分の電話番号(固定電話番号は市外局番から)をダイヤルし伝言を吹き込んでください。伝言を再生する場合は、数字の「2」を押し、相手の電話番号(固定電話番号は市外局番から)をダイヤルすると伝言を再生できます。災害用伝言ダイヤルは、毎月1日と15日に体験利用することができます。災害時に自分の無事を適切な手段で伝えることは、救助活動の助けにもなります。家族などで、録音・再生に使用する統一の電話番号を決めておくとう便利です。「災害時の声の伝言板」をもしもの時に使えるようにしてください。

災害用伝言ダイヤルは
➔ 171ダイヤル後、録音は1、再生は2